

大創「ワンタッチ野線」の技法を開発

板紙加工時の紙垂れ問題に対処

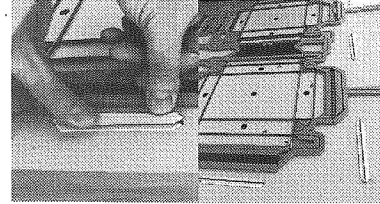
板紙の抜き型加工などの技術を提供する大創(株) (本社・大阪府大東市、大塚雅一社長) はこのほど、抜き型加工時の「紙垂れ」や「紙落ち」問題をクリアする「ワンタッチ野線」の技法を開発した。

これは製品の加工仕様によって、シートに厚みの差が出てしまったために起こる問題。シートが積み重ねられるうちに、部分的な厚みの差が膨らみ、どんどん一部分が垂れたり落ちたりする

このように状態を放置すると、後工程が進め難くなるのはもちろん、需要家から製品の品質を問われるクレームとなる恐れもある。

多くの現場では、この対策として樹脂や紙を用いた手製の「クサビ」を利用しているが、稼働中の機械に作業員が手を入れなければいけないため事故を惹き起こす危険性

がある。特に紙垂れ現象は、リード野やミシン刃が使われるパッケージによく発生する。大創では、この紙垂れ現象の改善のために二〇〇九年から製品開発に努めてきた。今年の夏、発案から十一年の時間をかけて、遂に出来上がったのが「ワンタッチ野線」の技法である。これは紙垂れ現象を根本的に改善する画期的な技術である。

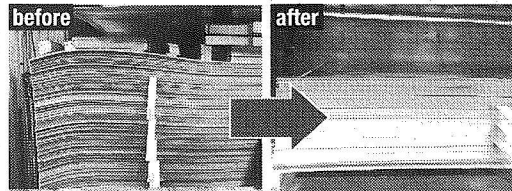


テープを剥がして抜型に貼るだけで使用が可能

るのが「紙垂れ」「紙落ち」である。

シートを打ち抜く時に発生する貫通刃物が入っている折り目の盛り上がりや積み重なり、シートの量が溜まれば溜まるほど、全体の厚みのアンバランスは大きくなる。

大創では、この紙垂れ現象の改善のために二〇〇九年から製品開発に努めてきた。今年の夏、発案から十一年の時間をかけて、遂に出来上がったのが「ワンタッチ野線」の技法である。これは紙垂れ現象を根本的に改善する画期的な技術である。



紙落ち(カス)部分に野線の山を作ることによってバランスよくシートを積み重ねることができる

で、バランス良くシートを積み重ねることができ、製品にクセが付く恐れもなくなる。多くのシートを積み上げることができ、